寝室として使用される部屋で、家老役(右)から城内構造の説明を聞く伍代夏子さん(右から2人目)＝8日夜、大洲城

ぜいたく 大洲城主体験

市など初実証実験 歌手伍代さん参加

大洲市などは8日、大洲城（同市大洲）で食事や宿泊ができる城主体験事業「キャッスルステイ（CS）」の実証実験を始めた。ゲストには肱川あらし観光大使を務める演歌歌手の伍代夏子さんが招かれ、「河辺鎮縄（しめ）神楽」など地域の伝統芸能に親しんだほか、城内で夕食を堪能した。

市は、市内の文化財などへの来訪者に、歴史に基づいた特別体験を提供する事業を進めることで認知度向上や地域経済の循環、保全・整備環境の確保などを目指している。CSは、2020年4月以降の開始をめどに準備を進め、運用は市と連携協定を結んでいるバリューマネジメント（大阪市）が行う。同社によると、想定では1日1組（2人以上、年齢・国籍を問わない）限定で、料金は1組100万円から。春と秋を中心に、年間約30日、一般公開終了後の午後5時～翌朝9時までの運営としている。

実験では、初代大洲藩主加藤貞泰に扮（ふん）した城の職員が、旗振り隊や鉄砲隊の歓迎を受けながら白馬に乗って入城し、伍代さんに城主証を手渡した。伍代さんらは家老役の案内を受け、天守1階の寝室を見学。本丸前の特設ステージでは神楽を観覧したほか、国指定重要文化財「高欄櫓（こうらんやぐら）」1階で地元野菜などを使った料理「殿様御前」を堪能した。

伍代さんは「すでに『誰と来ようかな』と思ったぐらい貴重な体験だった。非日常的でぜいたくな時間を過ごせるので、日本の若い方にもどんどん来ていただきたい」と話した。同社などによると、8～9日朝にかけ、市職員らが夜間の安全点検をしながら宿泊する。実験結果を検証し、提供するサービスを考案する。（薬師神亮太）

神楽堪能 殿様御前に舌鼓

愛媛新聞 :朝刊 2019/11/09 面名:総三 ページ:007

(C) 愛媛新聞社　無断転載、複製及び頒布は禁止します。